学校法人 大阪音楽大学広報誌

Muse

vol.214
2010 October
発行／学校法人 大阪音楽大学
編集／広報誌編集部
〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8
TEL／06-6334-2131 FAX／06-6334-2141
URL http://daion.ac.jp
発行日／2010年10月20日

ザ･カレッジ･オペラハウスにUFO着陸!?　実は天井のシャンデリアでした（2010年9月1日）

2015年 楽 創立100周年

CONTENTS

大栗裕の童謡オペレッタを復元 ……2
真夏のオープン・キャンパス ……10・11

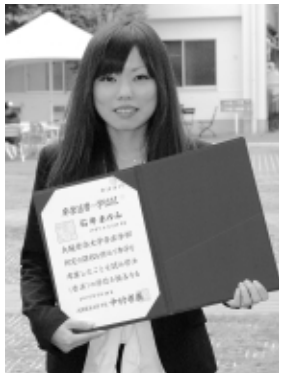
■連載「校史点描」＜15＞ ……3
■特別講義　クラリネット　吹奏楽　ほか ……4
■授業紹介　芸術文化の諸相　S.ギニャール講師 ……5
■大阪音楽大学の催し ……6
■オペラハウスの催し ……7
■オペラ物知り講座 ……8
■オペラ演出ワークショップ ……9
■教員免許状更新講習 ……12
■音楽療法実習　中学生サマースクール ……13
■アジアユース合唱団を指揮　岸本正史さん ……14
■「まほろば」の会が5周年 ……15
■入試ナビ ……16
■片岡講師　タローシンガーズが大阪文化祭賞 ……17
■Approach to Chopin　仲道郁代特任教授 ……18
■大学･幸楽会後援演奏会 ……19
■音楽幼稚園夏まつり ……20

懸命のリハビリ 執念で証書

交通事故で重傷 卒業絶望 でも…

フルート 石井あゆみさん

交通事故で重傷を負った女子学生が絶望の淵から這い上がり、9月24日、念願の卒業証書を手にしました。大学・管弦打専攻の石井あゆみさん（フルート）。家族や友人、先生たちの限りない励ましと、「卒業したい」という強い心が支えになり、この日を迎えました。



石井さんは4年生の09年10月、神戸市内でバイクを運転中、Uターンしてきたワゴン車にはねられ頚椎骨折。右手中指にもひびが入る大事故でした。オーケストラの定期演奏と卒業演奏を控えた大事な時期。「何でこんな時に…」。3カ月間は首を固定したまま安静状態が続きます。「もう、フルートが吹けないのでは」。焦りと不安が病床の石井さんを襲います。

追試験を諦め、3月の卒業を断念した石井さん。骨がくっつき、普通の生活に戻れたのは、事故から9カ月後、7月に入ってからでした。首が動く、指が動く。公開卒業演奏に向け、練習再開です。

9月13日にミレニアムホールで行われた卒業演奏には、家族や同級生たちが応援に駆けつけてくれました。曲目はドイツの作曲家C・ライネッケの「Concerto in D major」。

この曲は石井さんが以前から決めていた曲です。2楽章は悲しく、3楽章は明るく終わる情緒的な曲。旋律に対する熱い気持ちが折り込まれ、技術的にも高度な曲、とされています。

演奏時間は約10分。石井さんにとっては4年間の集大成。この10分に思いのすべてをぶつけました。「久しぶりの本番。想像以上に体が固まり、緊張しました」。伴奏を引き受けた杉本悠さん（院1・作曲）は「途切れず最後まで演奏してくれ、ホッとしました」。

9月24日に行われた前期卒業証書授与式には卒業生7人のうち大学生2人、短大生3人が出席しました。中村孝義学長から卒業証書を受け取った石井さん。「半年遅れの卒業式でしたが、ここまで来られたのは、失意の時に励ましてくれた皆さんのお陰です」。卒業後は小学校の先生を目指します。

ハンディのある人もない人も生の音楽を楽しんでください、というバリアフリーコンサートが9月23日、茨木市クリエイトセンターで催されました。石原光世講師らが企画、27回目の今回は第2部で大栗裕作曲の童謡オペレッタ「ごんぎつね」を上演しました。

茨木でバリアフリーコンサート

大栗裕作曲の童謡オペレッタ復元

第1部は「日本の音、西洋の音」で、ピアノの石原講師やフルートの齊藤舞歌さん（96年院修）らが「浜辺の歌変奏曲」（成田為三）、「十五夜お月さん」（本居長世）などを演奏。

第2部は「ごんぎつね」。新美南吉の童話「ごんぎつね」を本学講師も務めた大栗氏が1962年（昭和37年）に、関西学院大学マンドリンオーケストラのために作曲（自作譜表記はごん狐）。白石知雄講師が本学音楽図書館大栗文庫にあった昭和30年代のラジオ放送の音源と関学に残された資料で復元作業を行い、初代ごんぎつねを演じた渡邊弓子元教授らの協力で約1年前から準備。

ピアノ、フルート、大正琴を組み合わせたピアノ版は珍しいそうです。キャストはごんぎつねを小西潤子さん（90年院修・オペラ）、兵十をオペラハウス合唱団登録正団員の萩原次己さんが演じ、杉元比左子さん（80年院修・歌曲）が朗読しました。

校史点描〈15〉

創立百周年に向けて

大阪音楽学校校長の永井幸次は1933年（昭和8年）2月に「大阪音楽学校規則」（B6判、24ページ）を制定。同3月には学校の再編・整備を図るために「後援会」を設立しました。主な目的は財団法人化でした。3月30日付の読売新聞は「第一に着手すべきは財団法人の設立、本校昇格運動（音楽教育無試験検定の指定獲得）」などと報道しています。この財団法人を経て、今のような学校法人になったのは18年後の51年（昭和26年）でした。

（文中敬称略）

学校規則による課程は①本科2年②専攻科2年③高等科4年④師範科3年⑤研究科1年⑥特別専門科、年限なし⑦幼稚園保姆養成科2年⑧選科2年⑨特別選科1年。専攻と師範両科は小、中学校の教員養成です。授業日は①～⑥が毎日、他は週1、2日で、授業時間は男子部が午前7時―午後2時、女子部は午前9時―午後4時。総定員は350人。入学金3円、納付金は本科が年額88円（授業料55円、校費・楽器使用料33円。専攻科、高等科、師範科は同99円（66円と33円）

一方、後援会の事業計画は、財団法人化、学校昇格のほか保姆養成所の新設、特別専門科の創設（著名な外国人音楽家の招聘）、権威ある混声合唱団と交響管弦楽の組織拡大などを盛り込んでいます。

永井所有のすべて寄付

財団法人の設立

また、一般の援助を仰ぐため、名誉会員、特別会員、正会員を募集し、入会者には毎年2月に開催される大阪音楽学校の音楽会と年数回の音楽会に招待する、となっています。

財団法人設立の認可申請は6月9日に出しています。申請書の要約は「大阪音樂學校、永井幸次ガ御大典記念トシテ大正四年十月五日ヲ以テ設立認可相受ケ爾来 鋭意劃策 經營維持ニ日夜努力ヲ續ケ十有九年ヲ經過致シ今日ニ至リ候得共 資力乏シキ爲メ常ニ時勢ノ進運ニ後レ勝チト相成候事ヲ眞ニ遺憾ニ存ジ居候處 和歌山市鷹匠町、加藤剛氏 コノ苦心經營ニ多大ノ同情ヲ表サレ今回基本金トシテ金参萬圓ヲ寄附致サレ候ニ付 コレヲ好機トシテ永井幸次所有ノ土地建物並ニ備品ノ全部総價額金七萬圓ヲ寄附致シ合計金拾萬圓ヲ以テ財團法人大阪音樂學校ヲ設立致シ益々本校ノ發展ニ盡瘁致ス決意ニ有之…」。

文中にある加藤氏は大阪音楽学校のピアノ教授で、永井の寄付分は木造3階建ての増築校舎（建坪58坪5合）と同敷地2筆83坪1合9勺、それにピアノ、オルガン、各種楽器と校具など備品一切で、半年後の12月18日に文部省の認可が下り、永井校長兼理事長が誕生しました。同日付の備品台帳には楽器や机、黒板など一切の品名が列記され、購入金額も記入されています。

永井の楽壇40年を祝う音楽会

後援会設け学校再編も

内訳は鍵盤楽器がグランドピアノ2、アップライトピアノ7、ハルモニューム1、リードオルガン10の計20点、弦楽器がチェロ2、ヴィオラ1、ギター2、マンドリン1の計6点、管楽器がバス2、クラリネット2、ホルン1、スライドトロンボーン1の計6点。机24、いす229、黒板4、名札320などで、金額は楽器類1万6124円、備品7228円で、総額は2万3352円。永井が学校に寄付したすべての明細でした。

法人認可から1年2カ月後の1935年（昭和10年）2月21日、「永井幸次先生楽壇四十年祝賀音楽会」が大阪朝日会館で開かれました。この日が61歳の誕生日。東京音楽学校を卒業し、大阪を拠点に40年にわたり音楽界に貢献してきた功績を称えよう、と京阪神在住の音楽家たちの発意でした。永井はステージを埋めたオール大阪混声合唱団300人の「浪華のゆかり」（松岸寛一作詞、永井幸次作曲）を指揮して満場の拍手を浴びました。また、盟友の田中銀之助から「樂壇四十年を祝ふ」（松岸作詞）の合唱曲を贈られました。

特別講義・公開レッスン

吹奏楽

陸上自衛隊 中央音楽隊

7月7日　ミレニアムホール

卒業生の柴田1等陸尉も指揮

陸上自衛隊中央音楽隊の吹奏楽演奏会（特別講義）がミレニアムホールであり、隊長の武田晃1等陸佐指揮でJ・P・スーザの行進曲「忠誠」を演奏。また、卒業生で第15音楽隊（那覇市）隊長の柴田昌宜1等陸尉（03年大専、オペラ・オーケストラ指揮）がS・R・エロールの「ソラス・アネ」などを指揮しました。中央音楽隊は51年に創設。首都圏で開催される年3回の定期演奏会や室内楽演奏会、全国各地でのコンサート・ツアー、陸海空合同コンサート、自衛隊音楽まつりなどのほか、音楽隊員の教育も担当しています。

本学出身の陸上自衛隊音楽隊員は柴田1尉、第3音楽隊（伊丹市）隊長の佐藤文俊さん、それに、教育中の2人を含めると計15人います。

クラリネット

ミッシェル・アリニョン氏 Michel Arrignon

7月24日　O号館101教室

しっかりと積極的に表現して

09年から客員教授になったアリニョン氏はフランスを代表するクラリネット奏者。国立パリ高等音楽院を卒業後、米国ミシガン大学で研鑽。古典から現代まで幅広いレパートリーを持っています。

受講したのは鷹羽萌子さん（大3）、澤井明日見さん、宮本茉実さん、井上舞香さん（以上大4）、西岡章博さん（大専）の5人。

ドビュッシーの第1狂詩曲を演奏した鷹羽さんに「音量的にもう少し吹いてよいでしょう。音色、音質はいいと思いますが、もう少ししっかり、積極的に表現してください。テクニック的には良かったです。最初に忘れてはいけないのはソリストだということです。しっかりとピアノにつないでください」とアドバイスしていました。

声楽

ヨズア・バルチュ氏 Josua Bartsch

7月21日　D号館201教室

ぶるぶる運動で2つのN克服

ラジオのドイツ語講座でおなじみのヨズア・バルチュ氏。ユーモアを交えた発音指導は学生にも人気があり、折笠舞さん（大4）、藤川晃史さん（院2）ら12人がクリニックを受けました。

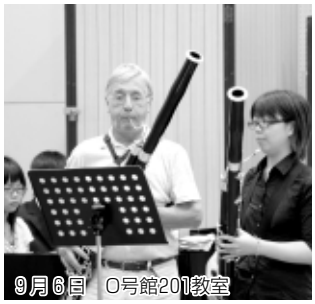
ほとんどの学生が「2つのn」に悪戦苦闘。「安全、アンキモ。舌はどこにいますか。舌の位置に注意して」。

「ドイツ語は日本語と違い、唇の筋肉が必要です」。唇の筋肉を鍛える取って置きの方法を教えます。ボールペンを1分間、唇でくわえてください。

次は唇を震わせ、筋肉を和らげます。赤ちゃんにするように「ぶるぶる」運動。この運動を毎日続けると、唇の筋肉は鍛えられ、ドイツ語の発音は見違えるほど上達するはずです。

ファゴット

ヘルマン・ユンク氏 Helman Jung


9月6日　O号館201教室

グリンカはテンポを揺らして

北西ドイツ音楽大学（デトモルト音楽院）教授のファゴット奏者、ヘルマン・ユンク氏が、ファゴットと木管五重奏の公開レッスンを行いました。ファゴットでレッスンを受けたのは、三上綾子さん（大2）と松本静香さん（大4）。M・グリンカの「ソナタ」を演奏した三上さんには「グリンカは後期ロマン派だから、もっとテンポを揺らしていい。楽器を回したり、ブレスのとき楽器を下げると変なアクセントがつくので、しっかりキープすること」、C・サン＝サーンスの「ファゴットソナタ」を演奏した松本さんには「ロングトーンは弧を描くような息の流れで。リードに舌がちゃんとついていないと、発音するとき雑音が入るので注意して」などと指導しました。

授業紹介　大学院「芸術文化の諸相」

琵琶の幽玄な世界を探究

大学院「芸術文化の諸相」の前期講師は、筑前琵琶奏者、音楽学者で大阪学院大学教授のシルヴァン・ギニャール氏でした。ギニャール氏は、スイスでショパン研究により博士号を取得後、日本の伝統音楽を研究するため大阪大学へ留学。人間国宝の故・山崎旭翠氏に23年間師事して筑前琵琶を学んだ異色の経歴の持ち主です。

西洋の音楽、東洋の音楽双方に精通した比較芸能論の視点から、シュメール人のメソポタミア文明に遡る古代リュートに始まり、シルクロードを経て日本に伝わった琵琶の歴史や、楽琵琶、平家琵琶、薩摩琵琶、筑前琵琶と独自の発展を遂げた日本の琵琶楽を講義し、現代音楽における琵琶の可能性にもふれました。その中から自ら琵琶を演奏し、表現の多様さ、奥深さを示した「筑前琵琶」の授業を紹介します。

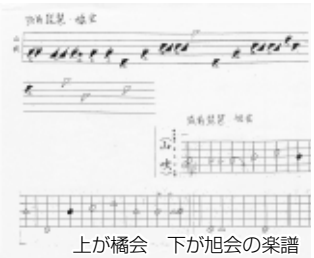
筑前琵琶奏者　音楽学者
シルヴァン・ギニャール講師

若き3人が生んだ筑前琵琶

明治維新後、盲僧制度が廃止されて北九州を中心とした盲僧琵琶は衰えました。しかしその伝統を基に明治20年代、若き3人の音楽家が協力して新しい琵琶楽、筑前琵琶を生み出しました。3人の名は、橘智定、鶴崎賢定、吉田竹子。橘と鶴崎は筑前（福岡）の盲僧琵琶の家系を継ぐ晴眼者。吉田は芸妓でした。おもしろいのは一人で発明したのではなく、3人がいろいろな実験をして楽器を改良し、芸妓の三味線の知識や技術も取り入れて、新しい琵琶楽を生み出したこと。以後、橘流として全国的に広まり、大正期にますます発展しましたが、後に音楽理念の相違から、橘会と旭会に分派しました。

流派が守る独自の美意識

〝流派〟は日本の音楽史上、大事な問題です。日本の伝統音楽の世界では、各流派が違う楽譜を持ち、同じ筑前琵琶でも橘会と旭会は記譜が違うため、お互いに楽譜が読めません。例えば「山吹」の同じ個所を記した楽譜を比較してみましょう。橘会の楽譜は、五線に撥の使い方を示す三角が書き込まれ、伝統的な薩摩琵琶でも使われている古い記譜法。楽譜に書き込まれた「火」「土」「金」などの漢字は五行思想に由来するもので、盲僧琵琶の時代、琵琶法師は陰陽師でもありました。五線は西洋の五線譜と違い、五絃琵琶の絃を表した奏法譜。奏法譜はヨーロッパのルネサンス時代にもありました。旭会の楽譜は、西洋の五線譜を研究した新しい記譜法。柱を表す横の線と、時間を表す縦の線に文字や記号が書き込まれ、ビートがわかりやすいのが特徴です。



上が橘会　下が旭会の楽譜

声の使い方についても、西洋ならベルカントを理想とする一つの理念があります。しかし日本では声に対する20種類以上もの美の理念があって、みんな違うのです。琵琶の世界でも流派の違いが声の使い方に、はっきり現れています。流派特有の排他性が独自の美意識、芸術を守ったともいえるでしょう。

男性的な薩摩　女性的な筑前

筑前琵琶の楽器は、薩摩琵琶よりやや小さく、薄いツゲ製の撥で弾奏します。腹板が特別処理の桐製のため音質が非常に柔らかいことから、男性的な薩摩琵琶に対し、筑前琵琶は女性的といわれています。おもしろいのは、一絃と三絃を同じ音程に調弦すること。なぜでしょう。琵琶で語る主な物語は、平家物語や英雄の最後といった武士の世界。劇的な戦いの場面では一絃を打弦楽器、つまりパーカッションとして使います。そのボリュームとパワーを生かすため、一弦は解放弦だけでほとんど押さえません。メロディーは三絃。絃を押さえて音高を変化させました。

琵琶はギター・リュート系の楽器ですが、フレットが非常に高い。微妙な押さえ加減でいろんな音が出せます。このように指先で敏感に糸を震わせると、悲しげで繊細な表現もできるのです。

……

ここでギニャール氏は楽器を院生や英国からの留学生に渡して、琵琶を手ほどき。いい音が出ると歓声が上がりました。最後はいよいよ筑前琵琶で「羅生門」の独奏です。ギニャール氏は重厚な歌と変幻自在な琵琶の音で、幽玄の世界へと誘いました。

11月・12月 学校法人大阪音楽大学の催し

11月2日(火) 14時	**音楽・心の旅24「リコーダー　その歴史と音楽への探訪の旅」** 豊中市立中央公民館　講師　田村義一
11月2日(火) 17時	**第6回ミレニアムピアノコンサート** MH　出演　大竹道哉　鳥居知行　木村綾子
11月4日(木) 18時	**第27回ミレニアム・スチューデント・コンサート　第一夜** MH　出演　選抜学生
11月5日(金) 18時	**第27回ミレニアム・スチューデント・コンサート　第二夜** MH　出演　選抜学生
11月6日(土) 14時	**第29回ミュージアム・セミナー「ケルトの伝統音楽」** 音楽博物館　演奏　hatao(畑山智明)　ディック・ヘンソールド　ほか
11月8日(月) 18時	**第27回ミレニアム・スチューデント・コンサート　第三夜** MH　出演　選抜学生
11月8日(月) 18時30分	**公開講座フェスタ2010　「エキスポ・クラッシック」** さいかくホール　講師　白石知雄
11月9日(火) 14時	**音楽・心の旅24「ヴァイオリンとギターのおしゃべり」** 豊中市立千里公民館　講師　赤松由夏
11月12日(金) 14時	**音楽の宝石箱　「ジャズ演奏の分解と組み立て!」** 高槻市立生涯学習センター　講師　赤松二郎
11月12日(金) 18時	**20世紀オペラ「欲望という名の電車」** OH　出演　松田昌恵　石橋栄実　藤村匡人　小餅谷哲男　ほか
11月13日(土) 17時	**Daionコンサート　夕映えの海とともに** ATC大阪南港サンセットホール　出演　南亜貴子　柳川真理子
11月14日(日) 14時	**20世紀オペラ「欲望という名の電車」** OH　出演　松田昌恵　石橋栄実　藤村匡人　小餅谷哲男　ほか
11月15日(月) 18時	**第21回ザ・カレッジ・コンサート** MH　出演　西根里絵　山下美緒　林佑子
11月19日(金) 14時	**音楽の宝石箱「連弾弾丸トーーーク!?」** 高槻市立生涯学習センター　講師　木村貴子　關口康祐
11月22日(月) 18時	**第22回ザ・コンチェルト・コンサート** OH　出演　田中梨沙　角武　伏見千紗都　平垣友里
11月26日(金) 14時	**音楽の宝石箱「音色のファンタジア」** 高槻市立生涯学習センター　講師　宇野友基子
11月26日(金) 18時	**第33回邦楽演奏会** MH　出演　邦楽専攻生
12月3日(金) 19時	**大阪音楽大学第53回定期演奏会** ザ・シンフォニーホール　出演　大阪音楽大学管弦楽団
12月4日(土) 14時	**第67回ミュージアム・コンサート「古典ピアノの魅力」** 音楽博物館　演奏　本岡浩子　小玉晃
12月9日(木) 17時	**第7回ミレニアムピアノコンサート** MH　出演　篠原理恵　北村美奈子　岡原慎也
12月11日(土) 14時	**ミレニアムホール特別講座「チェロ誕生の物語」** MH　出演　日下部吉彦　上塚憲一　高本一郎
12月11日(土) 17時	**Daionコンサート　夕映えの海とともに** ATC大阪南港サンセットホール　出演　小橋綾実　藤田紗織
12月16日(木) 17時	**ヴォーカル・グレート・コンサート** OH

OH／オペラハウス　MH／ミレニアムホール

第21回　ザ・カレッジ・コンサート

11月15日(月) 18時　ミレニアムホール
入場料1000円　自由席
ピアノ　西根　里絵(大学1年)
L.v.ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ　第21番　ハ長調　作品53(「ワルトシュタイン」)
クラリネット　山下　美緒(大学2年)
R.シューマン:幻想小曲集　作品73　ほか
ソプラノ　林　佑子(大学4年)
G.プッチーニ:歌劇「蝶々夫人」より　ある晴れた日に　ほか

第22回　ザ・コンチェルト・コンサート

11月22日(月) 18時　ザ・カレッジ・オペラハウス
入場料1000円　自由席
指揮　小田野宏之
管弦楽　ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
ソリスト
フルート　田中　梨沙(大学4年)
J.イベール:フルート協奏曲
打楽器　角　武(大学4年)
A.ジョリヴェ:打楽器とオーケストラのための協奏曲
ピアノ　伏見　千紗都(大学2年)
W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲　第23番　イ長調　K.488
ピアノ　平垣　友里(大学専攻科)
L.v.ベートーヴェン:ピアノ協奏曲　第3番　ハ短調　作品37

第33回　邦楽演奏会

11月26日(金) 18時　ミレニアムホール
入場料1000円　自由席
演奏　大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部邦楽専攻生
大阪音楽大学邦楽専攻教員・演奏員

大阪音楽大学 第53回定期演奏会

12月3日(金) 19時　ザ・シンフォニーホール
入場料　1000円　指定席

【チケット取扱い】
チケットぴあ　☎0570-02-9999　Pコード 119-980
ABCチケットセンター(ザ・シンフォニーホール内 窓口受付のみ)
大阪音楽大学コンサート・センター　☎06-6334-2242

指揮　小田野宏之(大阪音楽大学特任教授)
クラリネット独奏　パスカル・モラゲス(大阪音楽大学客員教授)
管弦楽　大阪音楽大学管弦楽団

O.ニコライ:
歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲
W.A.モーツァルト:
クラリネット協奏曲　イ長調　K.622
H.ベルリオーズ:幻想交響曲　作品14

◇大阪音楽大学主催演奏会のチケットは電話、Fax、はがきでコンサート・センターへお申し込みください。ホームページからもお申し込みいただけます。
http://daion.ac.jp ［大阪音楽大学コンサート・センター］〒561-8555　豊中市庄内幸町1-1-8　☎06-6334-2242　FAX06-6334-2164

ザ・カレッジ・オペラハウスの催し

第46回オペラ公演 20世紀オペラ・シリーズ

原作テネシー・ウィリアムズ
作曲アンドレ・プレヴィン

「欲望という名の電車」

（原語・英語上演　字幕付）

11月12日（金）18時　11月14日（日）14時　全指定席
入場料　一般7000円　シルバー6000円　小・中・高校生3000円
＊幸楽会、付属音楽院会員はシルバー料金と同額とします。
指揮 大勝 秀也　**演出** 中村 敬一　**制作統括** 荒田 祐子

松田昌恵

石橋栄実

藤村匡人

小餅谷哲男

◆キャスト◆

ブランチ	松田昌恵	ステラ	石橋栄実
スタンリー	藤村匡人	ミッチ	小餅谷哲男
ユーニス	野間直子	スティーヴ	松岡重親
若い集金人	諏訪部匡司	メキシコ女	西村　薫
医師	木村孝夫	看護婦	植田加奈子
パブロ	池森庸祐		

管弦楽　ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

オペラ・プレトーク&映画上映会 開催
「欲望という名の電車」の見どころ、聴きどころ
10月30日（土）14時　ミレニアムホール　入場無料
プレゼンター：大勝秀也　中村敬一　荒田祐子

ザ・カレッジ・オペラハウス第25回推薦コンサート

八軒康浩とその仲間たち
～アンサンブルの妙～

2011年1月16日（日）14時　全自由席
入場料　一般2000円　シルバー・小・中・高校生1000円

ヴァイオリン　八軒康浩　**ヴィオラ**　辻田結城彦
チェロ　髙瀬恵理也　**ピアノ**　松村則子

P.I.チャイコフスキー：ピアノ三重奏曲　イ短調　作品50
「偉大な芸術家の思い出に」
J.ブラームス：ピアノ四重奏曲　第1番　ト短調　作品25

2011年度オペラハウス推薦コンサート 出演者募集

■**開催日**　前期：2011年4月～2011年7月
後期：2011年10月～2012年3月
■**応募資格**　本学関係者（卒業生、教職員、演奏員等）
■**対象**　①リサイタル形式の公演
②器楽、声楽のソロ、アンサンブル、室内楽形態の公演
③上記①②に含まれない企画内容の公演
■**応募受付締切**　2010年11月12日（金）16時必着

＊詳細は大学公式ホームページの募集要項をご覧ください。
＜送付先・問い合わせ＞
〒561-8555　豊中市庄内幸町1-1-8
大阪音楽大学コンサート・センター「ザ・カレッジ・オペラハウス推薦コンサート」係
☎06-6334-2131　Fax06-6334-2164
e-mail:ensou1@daion.ac.jp

College Information

音楽・心の旅24

11月2日（火）14時　豊中市立中央公民館
「リコーダー その歴史と音楽への探訪の旅」講師　田村義一
11月9日（火）14時　豊中市立千里公民館
「ヴァイオリンとギターのおしゃべり」講師　赤松由夏
受講料　無料　＜申し込み＞豊中市立中央公民館 ☎06-6866-0555

ミレニアムピアノコンサート

11月2日（火）17時　ミレニアムホール　入場無料
演奏　大竹道哉　鳥居知行　木村綾子
12月9日（木）17時　ミレニアムホール　入場無料
演奏　篠原理恵　北村美奈子　岡原慎也

第29回ミュージアム・セミナー「ケルトの伝統音楽」

11月6日（土）14時　音楽博物館　受講料1000円
お話と演奏　hatao（畑山智明）
演奏　ディック・ヘンソールド　松阪健　上原奈未

第67回ミュージアム・コンサート「古典ピアノの魅力」

12月4日（土）14時　音楽博物館　受講料1000円
お話と演奏　本岡浩子　**演奏**　バリトン　小玉晃
＜申し込み・問い合わせ＞音楽博物館
☎06-6868-1509　FAX06-6865-1221　＊事前のお申し込みが必要です。

公開講座フェスタ2010

11月8日（月）18時30分　さいかくホール　受講料500円
「エキスポ・クラシック―音楽家から見た大阪万博―」
講師　白石知雄
＜申し込み＞府民お問い合わせセンター「公開講座フェスタ2010」係
☎06-6910-8001　FAX06-6910-8005

NHKテレビ番組
「よみがえる『ラジオ歌謡』とその時代
～大阪発・60年ぶりの復活演奏～」
11月3日（水・祝）15時30分～17時40分　BS2で放送
大栗裕作品を本学教員、オペラハウス合唱団員が演奏
演奏曲　大栗裕：歌劇「夫婦善哉」
大栗裕：ラジオ・ミュージカルス「待てど暮らせど物語」ほか
出　演　石橋栄実　松本薫平　片桐直樹
ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団　ほか
＊8月5日、NHK大阪ホールで公開収録された番組です。ぜひごらんください。

音楽の宝石箱

第3回　11月12日（金）14時
「ジャズ演奏の分解と組み立て！」
講師　赤松二郎（サクソフォーン）
第4回　11月19日（金）14時
「連弾弾丸トーーーク!?」**講師** 木村貴子 關口康祐（ピアノ）
第5回　11月26日（金）14時
「音色のファンタジア」**講師** 宇野友基子（ハープ）
会場　高槻市立生涯学習センター　**受講料**　各回1000円
＜問い合わせ＞高槻市立生涯学習センター　☎072-674-7700

第41回 ミレニアムホール特別講座『チェロ誕生の物語』

12月11日（土）　14時　ミレニアムホール
プロデュース・講師　日下部 吉彦
演奏　チェロ　上塚憲一　アーチリュート　高本一郎
受講料　1000円　＊事前のお申し込みが必要です。
＜申し込み・問い合わせ＞エクステンション・センター
☎06-6334-2251　FAX06-6334-2542

オペラ物知り講座 第6期

お話　中村敬一講師

オペラ物知り講座「裏方さんシリーズ」の3回目は「プロデューサーの仕事」。びわ湖ホール前館長の上原恵美さんに登場していただきます。上原さんは計画立案のころからホールにかかわり、びわ湖ホールの黄金時代を築いた名プロデューサー。建設当時の裏話、初代館長や芸術監督にまつわるエピソードを交えながら、オペラと劇場への思いを語っていただきました。

プロデューサー　上原 恵美さん

上原恵美さんのプロフィル

94年にびわ湖ホール開設準備局長就任。02年から08年まで館長、財団法人びわ湖ホール理事長を務める。現在は京都橘大学現代ビジネス学部教授。08年に京都新聞文化学術賞受賞。著書に「びわ湖ホール　オペラをつくる―創造し発信する劇場」（共著／新評論）など。

びわ湖ホールは四面舞台を備えオペラ、バレエなどに対応できる舞台芸術専用ホール。東京の新国立劇場よりも一年遅く98年に開場しました。

―なぜ滋賀にオペラを。

「関西にはすでに、いくつものコンサートホールがありました。後進の滋賀県に同じようなホールを造っても世界の有名オーケストラは来てくれそうにありません」

―当時は千人、二千人規模のホールが各地に、雨後の竹の子のように造られました。クラシックで会場をいっぱいにするのは至難の業。五木ひろしが来ないと満席にならない。そんな時代でしたよね。

「その通りです。そこで、関東に新国立劇場ができるなら関西にも新国立劇場の受け皿になるような劇場を造ってやろうじゃないかと。県としても大変な決断でした」

―地元の人たちの反応は。

「最初のころは『滋賀県のような小さな県にオペラハウスを造るなんてとんでもない』という声が随分ありました」

―初代館長は元文部大臣の赤松良子さん。サプライズでした。

「びわ湖を成功させるには赤松さんのように世界的な視野をもった人でなければ、という思いが私の頭の中にありました。そこで彼女のことを知事に相談しましたら『影も形もないホールに、それは無理だよ』と相手にしてくれません。それでも諦めきれず東京へお願いにあがったら、二つ返事で『ああ、いいよ』。あれには驚きました」。

―芸術監督は若杉さんでしたね。

「私の頭の中では早くから若杉弘さんに決めていましたが、若杉さんを説得するには名前の通った人でなければ難しい。そこで赤松さんを先頭に、恐る恐るお願いに行きました」

舞台は作り続けないと

―それでどうでした。

「若杉さんは、お受けするには条件がある、とおっしゃいました。一つは年に一回は日本の総力を上げてオペラを一本作ること。もう一つは青少年オペラ劇場を立ち上げることでした。その青少年オペラに演出家としてずっとかかわってこられたのが今、私の前にいらっしゃる中村敬一先生です」

―初演魔でしたね、若杉さんは。

「ヴェルディシリーズではドン・カルロの五幕版、エルナーニ、シチリア島の夕べの祈り、海賊など、日本初演のオペラを9年間上演してくれました」

―世界でもめったに上演されない曲目を、なぜ取り上げるのか、とお聞きしたところ「日本中から世界中から、このびわ湖に人が集まるから」とおっしゃっていました。劇場を離れられた今、これからの劇場、オペラについてはどう思われますか。

「劇場というのは舞台を作り続けないと死んでしまいます。質の高いものを作り続けることが人材発掘、育成につながるからです。作る行為をなくしたものは劇場ではないと、最近ますます思うようになりました」

♪

演奏はびわ湖ホール声楽アンサンブルの西田昭広さん（90年大卒・バリトン）。佐藤明子さん（97年大卒）のピアノでヴェルディ「ラ・トラヴィアータ」「ドン・カルロ」「オテッロ」などのアリア5曲を歌いました。

コンヴィチュニー氏「オペラ演出ワークショップ」

本学卒業生ら48人受講

世界的なオペラ演出家ペーター・コンヴィチュニー氏がこの夏、大津市のびわ湖ホールに登場しました。大阪音楽大学も協力して実現した「オペラ演出ワークショップ」（びわ湖ホール、昭和音楽大学、ドイツ文化センター主催）。プッチーニの「蝶々夫人」全編を7月31日から7日間で仕上げるハードなスケジュールでしたが、若手演出家や演出家を志す学生、びわ湖ホール声楽アンサンブル、演出家の中村敬一本学講師がコーディネートした歌手ら48人の受講生たちは、歌詞の解釈、演技指導を通して、大きな「財産」を手にしました。

写真はびわ湖ホール提供

「愛」と「平和」人間ドラマ学ぶ

「すべてのオペラには重要なメッセージが折り込まれており、そのメッセージを現代に伝えるのが、私たち演出家の大切な仕事です」。子どものころに西ドイツから東ドイツに移ったコンヴィチュニー氏。「愛」と「平和」。彼の演出のキーワードは東ヨーロッパで生活した経験から来るものです。

2幕。蝶々さんを捨てたピンカートンが妻のケートを連れて長崎に戻ってくる場面。蝶々さんが一途に自分を待っていてくれたことを領事のシャープレスから聞き、ピンカートンは動揺します。とがめるシャープレス。彼の肩をつかみ、激しく突き飛ばします。「登場人物のぶつかり合い、葛藤を伝えることこそ舞台の核なのです」。コンヴィチュニー氏はこの場面に30分もかけて指導しました。

最後のシーン。自害した蝶々さんは、自分を呼ぶピンカートンの声に反応して立ち上がり、最後は宙に手を伸ばし力尽きます。

コンヴィチュニー氏はこのとき二人のピンカートンを登場させました。一人は蝶々さんを捨てたことへの「懺悔」、もう一人は「私は今も蝶々さんを愛しています。坊やは必ず幸せにします」という気持ちを伝えるためではなかったか。咄嗟のアイディア。蝶々役を演じた和泉万里子さん（05年院修・ソプラノ）は「このステレオ効果で、悲劇が悲劇で終わらず、蝶々さんは最後に救われた気がします」。

コンヴィチュニー氏は世界的にも有名な読み替えの名手。ピンカートンを待つ蝶々夫人とスズキはキッチンドランカーという設定。「3年待ってどういうこと。苦しみと苛立ち。酒におぼれても不思議ではない」と説明。平野雅世さん（94年大卒・ソプラノ）は「そこまでやるか、という気持ちもありましたが、夫が残してくれたお金も底をつき、すさんだ生活。それを考えると酒もありかな。オペラは人間ドラマという彼の演出はリアルで説得力がありました」。

ピンカートンが乗った軍艦が港に入り大砲が鳴るシーンでは、大きな音とともに家中の電灯が消え、家財道具が倒れます。広島に強い関心を持つコンヴィチュニー氏。中村講師は「100年前のオペラを現代に置き換えるため、彼は原爆を登場させたのではないか」。

「大きな財産得た」

「この作品はプッチーニが私たちに与えてくれた贈り物。オーケストラの最後の音を思い浮かべてください。6度の和音という不思議な終わり方をしています。これこそが彼が私たちに突きつけている大事な部分。続きを考えろ、というメッセージだと思います」。

ワークショップは連日、時間を延長し、午後8時まで行われました。緊張と熱気に包まれたリハーサル室。8月6日に行われた公開発表会では誰もが生き生きと「人間」を演じました。

9月18日 ミレニアムホール

ミレニアムホール特別講座

「時代と国境を越えるギター」

講師　藤井敬吾　　お話　日下部吉彦

ギターは身近で親しみやすい庶民の楽器。歴史は古くルネサンスから現代、クラシックからロックまで、さまざまな音楽をギター一本で楽しむことができます。南米のチャランゴやハワイのウクレレも、ヨーロッパの古いスタイルを留めたギターの仲間。指から爪へ、弾くバランスを変えることで、音色のグラデーションが無限に引き出せるのも魅力のひとつです。

藤井講師はギターが盛んなスペイン音楽の特徴として、ヘミオラのリズム、フリギア旋法の音階、旋律を揺らすメリスマ書法を挙げ、本学卒業生の今村隆之さんと共演で、日本の天正使節団がローマ法王の御前で演奏した「皇帝の唄」や、トレモロが繊細な「アルハンブラ宮殿の思い出」、メリスマの旋律がもの哀しい「アランフェス協奏曲」などを演奏しました。

大阪音楽大学と同短期大学部は7月29日に「真夏のオープンキャンパス2010」を開催しました。この日は雨にもかかわらず近畿をはじめ遠くは東京、富山、愛媛、島根、鹿児島などから約900人が参加。全体説明会や教員によるウェルカムコンサートが行われたザ・カレッジ・オペラハウスは高校生たちでぎっしり埋まりました。

この後、第1キャンパスではピ

雨の中900人参加

11人オペラハウスで成果発表

田祐子教授、バリトン田中
村敬一講師が発音、演技
て指導。イタリア古典歌曲
に」「陽はすでにガンジス河
の二重唱「パリを離れて」、
唱」などに挑戦しました。
スで発表会。指揮・加藤完

二講師、ピアノ西尾麻貴、矢崎真理さん（いずれも本学演奏員）、この講座の修了生で現在本学に在学している岩瀬昌弘さん（院1）、塩見玲衣さん（学3）ら6人が助演し、オペラの醍醐味を体験しました。

アノ、管弦打、合唱、邦楽、ミュージカル、第2キャンパスではジャズ、ポピュラーなどの公開レッスンやコンサートがあり、参加者はお目当ての会場に忙しく移動していました。

ミレニアムホールで行われた「必笑♪モーツァルト・オペラの世界」は声楽の晴雅彦准教授、石橋栄実助教による見事な歌声、軽妙なトークで会場は熱気と笑いに包まれました。

大学院オペラ試演会

大阪音楽大学大学院音楽研究科のオペラ研究室試演会は7月22日、ザ・カレッジ・オペラハウスで催されました。演目はシェ

ロメオとジュリエット

イクスピア原作で、C・グノーの9番目のオペラ「ロメオとジュリエット」（全5幕＝抜粋、原語上演 字幕付き）。

舞台は14世紀イタリアのヴェローナ。モンテギュー家とキャブレット家の血なまぐさい争い、そのために起きた数々の悲劇的な事件が語られるところから始まります。

キャストはロメオを小林峻（院1）、ジュリエットを川口りな、中侑子（以上院2）、ジュリエットとステファノを南美里（院1）、ティバルト藤川晃史（院2・歌曲研究室）、メルキューシオ岩瀬昌弘（院1）ら。また、キャプレットを演奏員の桝貴志さんが演じました。

高校生のためのオペラ講座

プロの声楽家や演出家が懇切丁寧に指導する「高校生のためのオペラ講座」。6年目の今年は大阪、兵庫、遠くは鳥取県などから11人が参加し、8月20、21日に行われました。

初日はメゾ・ソプラノの荒
由也准教授、演出家の中
の基礎、身体表現につい
集から「愛しい人のまわり
から昇り」、オペラ「椿姫」
「魔笛」の「パパパの二重
2日目は夢のオペラハウ

受講者 評価の99%好評

教員免許状更新 必須領域に80人

大阪音楽大学の教員免許状更新講習は8月9、10の両日、必修領域「教育の最新事情」がありました。教育免許状更新制は09年4月から施行、2回目の今年は必修領域で80人が受講、事後評価の結果は、全体平均で「よい」と「だいたいよい」を合わせると98・7%にのぼりました。

選択領域は6月の「指揮法の基本と実践」を皮切りに「合唱指導法」（7月26、27日）、「日本伝統音楽」（7月28～30日）、「リコーダー指導法」（8月4、5日）の4講習がありました。

「教育の最新事情」の講習内容は「学校をめぐる状況変化」「専門職たる教員の役割」「子どもの発達に関する課題」「学校組織マネジメント」「学習指導要領改訂の動向」など。受講者の自由記述を紹介すると――。

「堅苦しい内容かと思っていましたが、どの講習も分かりやすく興味を持って聞くことができました」（小学校教諭）。「講習を受けてみて、それぞれの講習において教材内容・説明などに工夫がされていて有意義でした。各講師の先生方の持ち味も色濃く出ていて楽しく受講できました」（同）

「4人の先生の講義から今後の自分の授業をどう改善したらよいかを考えるヒントをいただけたと思っています。教職教養担当の先生方のセンスのすごさを感じました」（同）。「教育界、学校をめぐる最新事情はまさに最新事情で、現場にのしかかる矛盾点や、だから学校がこまる、ひいては子どもたちもふりまわされているという思いを持ちました。講師の方たちの純粋な教育に対する願いや子どもたちを思う愛情を感じることができました」（中学校教諭）。

ワイマール・フランツ・リスト音楽大訪問記

図書館長 米山　信

夏期休暇中に、本学の国際交流室からコンタクトをお願いしていたワイマール・フランツ・リスト音楽大学を、訪問する機会を持ちました。リスト音楽大学と本学はすでに交流を締結していて、昨年は同大学からマルティン・フリードリッヒ・カーゲルさん、本学からは高崎真央さんが交換留学生として、互いの大学で学びました。この度は、リスト音楽大学の国際交流室長であるハンス・ペーター・ホフマンさんが案内をしてくださいました。私は残念ながら直接会うことができなかったため、ホフマンさんを通してリスト音楽大学学長シュトルツル氏への中村孝義学長の親書を届けました。

日本からもOPAC検索できます

リスト音楽大学は幾つかの建物を施設として持っています。そのうち本校内にある図書館は、音楽書、楽譜、メディア関係の3つの部分に分かれていて、とても充実していると感じました。天井が高く、空間はわりあいゆったりとられています。ただ図書館員のウーリッヒさんによると、年毎に増える資料（含寄贈分）のためのスペース確保は悩みの種で、この点はどこの図書館も同じようです。

ホフマンさんによると、図書館の年間予算はおよそ10万ユーロ、日本円にして約1千2百万円程度でしょうか、州の予算と寄付で支えられているそうです。図書館のOPAC検索は、日本からもインターネットを通してアクセスできます。ドイツ語のサイトですが、興味のある人はアドレスを掲載しておきますので、挑戦してみてはどうでしょう。

リスト音楽大学　OPAC検索アドレス
http://opac.ub.uni-weimar.de/

音楽療法　6人実習

短大専攻科・音楽療法の学外実習が8、9月に豊中市内の坂本病院で行われました。今年の実習生は6人。2つのグループに分かれ同病院の那須貴之・音楽療法科長から音楽療法のノウハウを教わりました。

実習に参加したのは林由佳さん（ピアノ）、千原美智子さん（クラリネット）たち。「音楽には不思議な力があります。皆さんが日ごろ学んでいる音楽の持つ力で患者の心に迫ってください」と那須科長。

この病院の入院患者の多くは認知症や脳血管疾患による後遺症、長期寝たきりによって起こる廃用症候群にかかっている人たちがほとんど。無表情な人が多く、実習生たちは「故郷」「上を向いて歩こう」など童謡、唱歌、ナツメロなどを歌い、心の扉を開こうと悪戦苦闘します。

音楽療法士を目指す村山結衣さん（ポピュラー・ヴォーカル）は

心の扉開こうと学生苦戦

「実習では患者への接し方など、いろんなことを学びました。この仕事は音楽をやってきたからこそできる仕事。音楽療法士への夢実現に向け、これからも勉強します」。

中学生サマー・セミナー

大阪府下の中学生に呼びかけ、キャンパスで大学の授業を体験してもらう大阪中学生サマー・セミナーが、7月31日に行われました。大学コンソーシアム大阪が加盟大学に参画を募り実施している催しで、本学が参画するのは今年が初めて。一年生から3年生まで52人の中学生と保護者らがキャンパスを訪れました。

当日は音楽学の井口淳子教授と、声楽の晴雅彦准教授が中学生のために特別のプログラムを用意。午前中は音楽博物館を見学。好奇心いっぱいの中学生たちは、巨大なアルプホルンや素朴な親指ピアノ、古いタイプのトロンボーンなど、楽器の構造に興味津々の様子でした。ヴァイオリンなどの試奏コーナーも人気で、ガムラン・アンサンブルにも挑戦しました。続いて井口教授がサウンドスケープをテーマに、音楽学の模擬授業を行いました。午後からはO号館に移動。声楽の晴雅彦准教授が、合唱曲「旅立ちの日に」を題材に、呼吸法や発声のしくみ、そして〝聞く人に思いが伝わる歌い方〟を、楽しい語り口で生徒たちをぐいぐい引きつけながら、実技指導しました。

52人が楽器を体験

豊中市立第十中学校（吉川博校長）で夏休みのサマースクール（補習授業）があり、本学の学生14人が授業のお手伝いをしました。教職課程を履修している学生にとっては教育実習のリハーサル。真剣そのものでした。

サマースクールのお手伝いは地域連携の一貫で、昨年スタートしました。今年は7、8月に計9日間行われ、河原結花さん（大3・ヴァイオリン）ら14人の学生が先生役に名乗りをあげてくれました。

中学校で補習授業

学生14人お手伝い

学生たちは学年ごとに分かれ、英語、数学、国語などの教科を一人ひとり丁寧に教えていました。昨年に続き今年も先生役を務めた中才貴恵さん（短2・声楽）は、「昨年授業にかかわった生徒に大学の近くで偶然出会い、『先生！』と声をかけてもらえたのが大変嬉しかった」と話しています。本学の学生と、第十中学校の生徒が教育を通して素晴らしい関係にあることを実感しました。（エクステンション事務部門・江見力）

合唱指揮の岸本さん ツアーを終えて

7月にフィリピンで行われたアジアユース合唱団のコンサートツアー（21日―31日）はさまざまな成果をあげ、無事終了したそうです。以下はゲストコンダクターとして参加した岸本正史さん（02年院修・声楽）からの現地報告。

現地報告

アジアユース合唱団inフィリピン

私たちは21日にボホール島に集合した後、ボートで別の島に向かい、4日間のリハーサルキャンプが始まった。フィリピンは8つの世界遺産、約8000もの島を持つ自然豊かな国。空の青さ、海の透明さにまず圧倒され、初日のリハーサルはあっという間に終わった。

今回の参加者はアジア6カ国の若者35人。それぞれが合唱のエキスパートで、サウンドのすごさには改めて驚かされる。同じアジアでも各国の声質には特徴があり、音楽に携わるものにとって、それはとても興味深い発見だった。

私は今回、韓国、インドネシア、日本、ロシアなどの伝統音楽を混声にアレンジした曲を演奏会前半に、後半には現在アメリカで活動している若手作曲家の作品をいくつか取り上げた。それぞれの国には伝統音楽があり、それは特殊な音階やリズムによって構成されている。生活環境、言語、宗教、それに天候が音楽に大きな影響を与えることは以前、アジアユースに参加して特に実体験したことで、その違いをこの演奏会で紹介できればというのが今回の大きな私のコンセプトであった。

若者との出会い「私の財産」

最初の演奏会はボホール島。約350年前に建てられた最古の大聖堂が会場だ。二回目は別の島で、屋外の屋根付き会場。演奏途中に大雨が降り、ソフトな曲は雨音に邪魔されないよう急遽ダイナミックをフォルテに変えるなどのハプニングも。

観客はいずれも島の人たち。本格的な合唱を生で鑑賞するのは初めての人が多く、現地の人々にとってとてもいい経験になったのではないだろうか。フィリピンは特に内陸に入ると貧富の差が激しく、こういう専門的な音楽を生で聴く機会は一生ないかもしれないから。

合唱団はそれぞれの国の伝統衣装を着て演奏することになっており、それが舞台を盛り上げる。日本は浴衣が定番で、他の国はきらびやかなオリジナルの衣装で演奏する。ステージはまるでファッションショー。島の人たちはこれにも驚いたに違いない。

後列左から2人目が岸本さん

ツアーも大詰め。一行は28日に首都マニラに移動した。演奏会場は市内でも有数のホール。観客も大学関係者、合唱団の方々なので、メンバーの中にはこれまでとは違った緊張感があった。ゲストコンダクターとして参加している私もかなりの重圧があったが無事、大役を果たしホッとしている。

アジアユースに参加して、アジアの若者たちがそれぞれの国の伝統をしっかり受け継いでいることにショックを受けた。日本の若者は日本の伝統をどれほど誇りに思い、受け継いでいるのだろうか。

美しい自然と暖かい笑顔がとても印象的なフィリピンでの11日間は終わった。私はそこで出会った仲間のことを一生忘れないだろう。合唱をやっていて一番大きな財産は、人との出会いである。指揮者としてこれからもそのつなぎ目として活動できるよう研鑽を積んでいきたい。

フィリピン大学で特別講義

7月30日にフィリピン大学音楽学部と大学院から招待され特別講義を行いました。テーマは「日本の音楽文化とその音」。日本には地方によっていくつかの音階があり、それがどう発展していったのかを混声四部の曲にアレンジした作品を例に話を進めていきました。日本の合唱曲をフィリピンの音楽家に紹介できたことは、私にとっても大きな収穫だったと思います。

5周年迎え11月に記念演奏会

21世紀の創作歌曲 関西から発信

関西を中心に活動する詩人、作曲家、演奏家集団「まほろば―21世紀創作歌曲の会」（代表・鈴木英明本学名誉教授）が発足5年を記念し11月に歌曲集を出版、同26日には兵庫県西宮市の県立芸術文化センター・神戸女学院小ホールで出版記念演奏会を開催することになりました。

「まほろば」は詩作から作曲、さらに演奏へと三位一体の流れの中で独創的な創作歌曲を関西から発信する集団。04年に鈴木名誉教授の音頭で発足しました。

現在の会員は42人。詩人の中には大阪万博のテーマソング「世界の国からこんにちは」を作詞した島田陽子さん、詩集「ゆうひのてがみ」など数多くの詩集を出版している野呂昶さん、作曲家では和泉耕二教授、景山伸夫名誉教授、田島亘元教授、中澤道子講師、岡田正昭講師、演奏家には田中勉教授、水谷雅男教授（以上バリトン）、藤原啓子講師（ソプラノ）、小餅谷哲男講師（テノール）、若手では田邉織恵さん（00年院修・ソプラノ）、ピアノの松永昌子講師らが錚錚たるメンバーが顔をそろえています。

会員たちは05年から毎年本学ミレニアムホールで新作発表のための演奏会を開催、これまでに発表された創作歌曲は約150点にのぼっています。

鈴木英明さん

島田陽子さん

野呂　昶さん

田中　勉さん

11月に出版される歌曲集には「はるのこうえん」（池田もと子作詞、大澤弘之講師作曲）、「はんげしょう」（野呂昶作詞、鈴木英明作曲）、「秋になると」（島田陽子作詞、南川弥生講師作曲）など26曲が収められています。

「まほろばは21世紀にふさわしい日本歌曲を、ここ日本の伝統文化の宝庫である関西から発信することです。これからも会員たちの総力を結集して、新しい歌曲を発表し続けたいと思っています」と鈴木名誉教授。

11月26日の出版記念演奏会は19時開演。全席自由席で入場料は3000円（当日券あり）。チケットの申し込み、問い合わせは「まほろば事務局」（090―7553―0503）へ。

「まほろば」の会

畠山歩美さんの香港奮闘記

歌から離れ1年半。夏休み前は、慣れない環境の中で学校行事に追われ、体も心もクタクタ。激しいジレンマが私を襲います。

そんなことで夏休みは「自分探しの旅」に出かけました。行き先はアメリカ。ロスやサンディエゴを車で回り、今話題のレディ・ガガのコンサートにも行ってきました。

彼女のパフォーマンスは確かに凄くて、今までにはないアーティスト。自分のやりたいと思う表現をステージの上で惜しみなく披露する姿に心を打たれ、何だかうらやましい気持ちも。

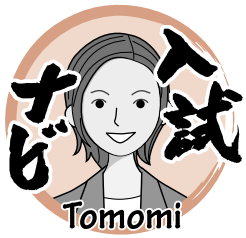
街でよく見かけたのが、めっちゃ太った女性のミニスカート姿。パツパツのミニスカートをはいていても、ちっとも不自然じゃないんですよね。これって凄く不思議なことで、その人がただ純粋にやりたいと思う振る舞いには、人を引付けたりする何かがあることに気づきました。

音楽会は大成功

◆

8月24日から2学期が始まり、吹奏楽部の子どもたち22人は早速、秋の音楽会に向けて練習再開です。曲はアニメ・ソング「さんぽ」（となりのトトロから）と、みんなのうたでおなじみの「Believe」。メンバーの半数は新入部員。うまく吹けないまま本番を迎えました。

ところが、そんな子どもたちがとうとうやってくれました。みんな本当に楽しそうに吹いてくれて、会場に見えたお父さんやお母さん、それに領事館の大使からも大好評。子どもたちと休日返上までして頑張ってきた、その努力が少しは報われた気がします。



こんにちは、受験アドバイザーのともみです。7月29日と10月11日にオープンキャンパスを開催しました。7月の来場者から「作曲の分析など勉強になった」「施設も充実していて、しっかり勉強できそう」「電子オルガンのアンサンブルがかっこよかった」「ここで音楽を学びたいと思った」などの感想が寄せられました。大好評のトートバッグを提げ、朝来た時よりも生き生きした表情で帰って行く姿が印象的でした。

本学を初めて訪れる方も多く、キャンパス内の案内や駅からの誘導にキャンパス・コンシェルジュが大活躍しました。

＝関係記事と写真は10、11ページに掲載。

11年度（大学・短大）推薦入学試験

試験日 11月20日（土）～11月23日（火）

出願期間 11月1日（月）～11月5日（金）郵送必着
11月6日（土）9時～13時　窓口持参のみ

受験講座（冬期）

開講期間 12月24日（金）～12月26日（日）

申込期間 11月30日（火）～12月6日（月）必着

対象 音楽大学受験を目指す方（高校1年生以上）

第61回音楽基礎科目到達度テスト

高校2年生は初めての、高校3年生以上は一般入学試験A日程前最後のテストになります。

実施日 12月27日（月）

申込期間 11月30日（火）～12月6日（月）必着

《幸楽会》特別推薦実技認定審査

同窓会《幸楽会》特別推薦実技認定審査を8月28日に実施しました。58人の申し込みがあり、大学32人、短大26人が特別推薦の出願資格を得ました。

短大進学実技適性テスト

11年度大阪音楽大学短期大学部公募推薦入学試験における「専門実技認定制度（専門実技免除）」に基づき短大進学実技適性テストを9月19日に実施しました。86人が申し込み、80人が「短大進学実技適性あり」との評価を得ました。

職員研修に129人

2010年度の職員研修は2つの講演と消防訓練。防災の日の9月1日に職員129人が参加し、A号館301教室とザ・カレッジ・オペラハウスで行われました。

講演の一番手は4月に本学理事に就任した十川輝明いずみホール支配人で、テーマは「魅力あふれる企業であり続けるために」。「夢空間」をコンセプトに徹底したお客様サービスを行っている東京ディズニーなどの成功事例を取り上げ、企業（大学）としての方向性、社会の変化にすばやく対応することが何よりも大事、と説明しました。

株式会社ビジネスコンサルタントの堤洋二さんは企業で今、求められているのは長期的、対極的なビジョン作りができる人たちで、これこそが今後生き延びていくための大切な条件、と説きました。

午後は豊中南消防署の指導で消防訓練。オペラハウスからの出火を想定し、消火器や消火栓を使った放水、観客の避難誘導訓練をしました。また、今年は煙体験をはじめて訓練に取り入れ、充満した煙の中からの脱出方法などを教わりました。

薬物の怖さ勉強

夏休み目前の7月21日、学生に薬物の怖さを訴える薬物乱用防止キャンペーンが行われました。若者を薬物から守るために、全国でキャンペーンを展開する財団法人「麻薬・覚せい剤乱用防止センター」のキャラバンカーが、学生サロン「ぱうぜ」前に到着。クイズや展示、映像を通して、体と心を蝕む薬物の種類、作用、依存性、取り締まる法律など最新の情報を提供します。キャラバンカーの展示を見学しながら「注射の跡が生々しい」「こんなにカラフルでかわいらしい形の錠剤だと、だまされるかも」「友達がクラブで誘われそうになったことがある」などと話す学生たち。同センターの指導員は、薬物の危険が驚くほど身近に潜んでいることを、訪れた学生たちに説明しました。

大阪文化祭賞　ダブル受賞

限界に挑戦 バッハを歌う片岡講師
無伴奏「冬の旅」世界初演の「タロー」

大阪府、大阪市、大阪21世紀協会が主催する平成22年度「大阪文化祭賞」の審査が7月に行われ、伝統芸能・邦楽の部で片岡リサ講師の箏リサイタル「B→C（バッハからコンテンポラリーへ）」、洋楽の部ではザ・タロー・シンガーズ（里井宏次教授主宰）のア・カペラ版、シューベルト「冬の旅」がそれぞれ選ばれました。5月から6月にかけて大阪府内で行われた52件の公演が審査の対象で、両公演とも独創性や企画、技法面で高い評価を受けました。

片岡リサ／箏リサイタル「B→C（バッハからコンテンポラリーへ）」（6月29日、大阪のザ・フェニックスホールで）

箏・十七絃の片岡講師が八橋検校の「六段の調」から現代作曲家の作品群、そしてバッハの曲まで、意外性に満ちたプログラムを見事に成功させました。

驚きはバッハの「カンタータ第68番」のアリア「信仰厚きわが心よ」などの「弾き歌い」。観客は片岡講師が箏奏者であることを忘れ、美しい声にどよめきが起きたほどでした。

審査員は「和と洋、古典と現代の境界を軽やかに越え、自在に飛翔してみせた。プログラムの成功を裏付けたのは、確かな演奏技量と艶やかな声、果敢に挑むチャレンジ精神であろう。これからも箏曲の無限の可能性を内外に広く伝えて欲しい」と絶賛しています。

片岡講師が自ら言うように、今回の公演はまさしく「限界への挑戦」。見事に花開きました。

片岡講師の話　「邦楽」「クラシック」とジャンルを区別せず、これからも素晴らしい作品に触れ、日本中に、世界中に箏の音色を届けられるようがんばります。

撮影・大窪道治／写真提供・東京オペラシティ文化財団

ザ・タロー・シンガーズ／ア・カペラによるシューベルト「冬の旅」初演（6月27日、いずみホールで）

ザ・タロー・シンガーズを主宰する里井教授が連作歌曲集「冬の旅」（全24曲）の無伴奏混声合唱による全曲演奏を企画。作曲家の千原英喜講師が歌詞とピアノパートを一音符たりとも省略することなく編作し、旋律も伴奏も声だけという新しい「冬の旅」が生まれました。

カラスの虚無的な鳴き声、旅人（はずれ者）を排除しようとする犬の威嚇的な遠吠えは合唱団の擬声を用い、郵便馬車のひづめの音は舌打ちにより、心騒ぐ主人公の未練と苛立ちを表現。声だけの「冬の旅」はピアノ以上に余韻を含み、無限の悲しさを広げてくれました。

受賞理由には「この奇想天外な試みは見事に実現した。千原氏は単なる『編曲』ではなく、新たな音楽の創造だ。この大実験を成功させた千原氏の功績、企画者であり水準の高い演奏に仕上げた指揮者の里井氏とザ・タロー・シンガーズの好演を称えたい」と。

里井教授の話　ア・カペラ版「冬の旅」が高い評価を受けたことは、非常に意義あるものと感じています。これからはア・カペラ音楽を世界に向け果敢に発信していきたい。

千原講師の話　「冬の旅」の中でシューベルトと私は一体であった。幸せだった。今後は「美しき水車小屋の娘」「白鳥の歌」にもチャレンジしてみたい。

コンクール（敬称略）

■第22回宝塚ベガ音楽コンクール声楽部門　1位、兵庫県知事賞
中西麻貴（00年院修・ソプラノ）

中西麻貴

杉山恵梨

奥田愛

髙田亜佑美

=6月27日、宝塚市ベガ・ホール。宝塚市文化振興財団など主催

■第13回“長江杯”国際音楽コンクール弦楽器部門大学の部
3位　杉山恵梨（大4・ヴァイオリン）▽**声楽部門大学の部**
3位　奥田愛（大専・ソプラノ）
▽**ピアノ部門大学の部**　**3位**　髙田亜佑美（大2・ピアノ）＝8月18日、ピッコロシアター。中国音楽理事会など主催

ショパン生誕200年記念
Approach to Chopin
vol.4　楽器

歌うピアノ プレイエル

仲道郁代　特任教授

ショパン生誕２００年にあたる今年、ショパンが最も愛したプレイエルのピアノと、当時のオリジナル楽器で編成したオーケストラで、ピアノ協奏曲を演奏するという夢のような演奏会が、日本で初めて開かれました。ソリストは仲道郁代本学特任教授。ショパンと同時代、１８３９年製のプレイエルを演奏しました。今回はショパン芸術の核となるピアノについてアプローチします。

３年前にショパンの足跡をたどる旅をして、フランスでショパンが好んで使っていたプレイエルのピアノに触れる機会がありました。弦もハンマーも当時のままで、鍵盤を押したとたん甘くやわらかな響きに包まれました。

プレイエルは歌う楽器。自分の指で音をつくりあげ、ショパンが求めた音楽を、細かなニュアンスまで細密画のように浮き立たせることができる楽器です。ベースから高音部にいたるまで、中低音、中、高音とレンジによって特有の音色感を持つことで、メロディーと伴奏だけでなく、オブリガートや複旋律がいろんな線で絡みあう音の綾を、織物のように浮かび上がらせることができるのです。

プレイエルは、音質の均一さとパワーを追求した現代のピアノとは、別のものと考えた方がよいでしょう。物理的にも鍵盤の幅、タッチの深さ、重さがまったく違っていて、現代のピアノは1センチの深さ、プレイエルは0・5センチ。鍵盤の幅も狭く、まず楽器全体としてのボリューム感、音のボリューム感の違いに驚かされます。最大の違いはシングル・アクションであること。現代のダブル・エスケープと異なり、鍵盤を一番上まで上げないと、次の音を打鍵したときに音が鳴らないため、鍵盤の中で音を弾く連打やトリルがきかない。動きとしては非常にシンプルで扱いにくいともいえますが、複雑な仕組みがひとつ省かれていることで、鍵盤を押した作業がそのままハンマーを上げる作業に直結するため、微妙なタッチのニュアンスまで音に反映させることができるのです。ショパンは体調のすぐれないときはエラール、体の調子がいいときは、プレイエルを弾いたそうです。プレイエルは自分で音をつくりあげなければならない分、エネルギーや心配りが必要になりますが、そうすることでイメージ通りのすばらしい音が得られたのでしょう。

ショパンと同時代のプレイエルを演奏する
仲道特任教授

細密画のニュアンス浮き立つ

ピアノは当時進化を続ける楽器で、プレイエルにもいろんな機能を持つ楽器がありました。たとえばダンパー・ペダルを途中まで踏むと中音から上はペダルがオフになり、中音から低音はペダルがオンになる分割システムを持つピアノ。ベースのハーモニーを響かせつつ、半音で動く上のメロディーを、濁らずきれいに浮き立たせて弾くことが容易になります。ショパンはいろんなタイプのプレイエルを弾いていましたから、多分その機能を知っていたでしょう。

作曲家、特にショパンが、自分が使っている楽器の性能に影響されないはずはありません。わずか39年の生涯、生前出版された60数曲の作品を見ても、作風は変化していきます。どんなピアノを弾いたのでしょう。ワルシャワ時代はパンタロン、ウィーンではシュトライヒャーやグラーフ、パリではプレイエルとエラールを弾いていました。その頃のウィーンの楽器は、モーツァルト時代のフォルテピアノの流れを汲み、アーティキュレーションの工夫によってさまざまな表情が出るタイプの楽器でした。スラーの書き方が次第に長くなっていったのは、長い旋律、長いフレーズを美しく歌える楽器、プレイエルに出合ったからかもしれません。

このように楽器から作曲家の書き方を見ていくのも興味深いものです。当時の楽器を知ることで、フレージングはこうあるべきではないか、ニュアンスを大切に弾きたい、などと意識する気持ちが芽生えてきます。それは現代のピアノでショパンを演奏するときにも、大きなヒントとなるはずです。

©Kiyotaka Saito

仲道郁代　桐朋学園大在学中に日本音楽コンクール第1位受賞。温かい音色と叙情性、卓越した音楽性が評価され、人気、実力ともに日本を代表するピアニスト。04年度から本学特任教授。

第44回幸楽会コンサート ニューイヤーコンサート

2011年1月10日(月・祝)14時　ザ・カレッジ・オペラハウス　入場料 1000円

1部 ハンク・ジョーンズ師を偲んで

赤松二郎　河村直樹　木村知之　塩入基弘　藤井司朗　森宏

2部 ピアノアンサンブル

ラプソディー・イン・ブルー　藤井快哉　油井美加子

3部 オペラガラ

「ルチア」より　狂乱の場　尾崎比佐子
「カバレリア・ルスティカーナ」より　田中友輝子
「愛の妙薬」より　中川正崇
「死の都」より　私の憧れ、私の迷い　晴雅彦
「セビリアの理髪師」より　桝貴志　ほか
ピアノ　木村貴子　關口康祐

ロビーコンサート 13時15分／13時40分
邦楽―箏曲　市ノ瀬佳子　藤井紗代子

お問い合わせ:幸楽会事務局
☎06-6334-2832

大阪音楽大学後援演奏会

青井彰ピアノ・リサイタル
10月29日(金)19時　3000円
兵庫県立芸術文化センター小ホール
ショパン:ソナタ　作品58　ほか
☎0120-961-891　JSOコンサート企画係

next mushroom vol.12 フィリデイ ショック!!
10月30日(土)13時　15時40分　18時30分
入場料　前売3部通し券5000円　学生1000円
上田希　大竹秀晃　葛西友子　奥田律　ほか
☎090-8443-5343　福井

パーカッショングループ大阪 打楽器アンサンブル演奏会
11月5日(金)19時　3500円
ザ・フェニックスホール
トリオ・パー・ウノ打楽器トリオのための　ほか
☎06-6135-0503　大阪アーティスト協会

ザ・タロー・シンガーズ第12回東京定期演奏会
F.シューベルト「冬の旅」
11月7日(日)17時　津田ホール
一般4000円　学生2000円
指揮　里井宏次　ア・カペラ混声合唱版
☎03-3440-7571　東京アーティスツ

茨木新作音楽展
11月8日(月)19時　2500円
茨木クリエイトセンター
駒井肇　中澤道子　高昌帥　永田孝信
北川文雄　熊谷美紀　大澤弘之　ほか
☎072-794-3824　梶山拓也

Ein Abend für Sunset Fans
11月14日(日)17時　1000円
南港サンセットホール
山本正三　勝桂子　マサミヤマモトサンセットファンズアンサンブル
☎06-6615-5005　ATC企画推進チーム

第40回現代音楽作品の夕べ
11月21日(日)16時30分　トントレフ・ヒコ
一般3000円　学生2000円
内藤正彦　近藤浩平　三善有希乃　鈴木陽子
e-mail:naito1019@yahoo.co.jp　内藤

平岡洋子フルートリサイタル「二つの宇宙」
11月25日(木)19時　前売4000円　当日4500円
兵庫県立芸術文化センター小ホール
平岡洋子　岩崎宇紀　野田千晶　延原弘明
大阪チェンバーオーケストラ
☎06-6135-0503　大阪アーティスト協会

「まほろば」21世紀創作歌曲の会
11月26日(金)19時　3000円
兵庫県立芸術文化センター小ホール
鈴木英明　和泉耕二　大澤弘之　中澤道子
南川弥生　ほか
☎090-7553-0503　中澤

青井彰ピアノ・リサイタル
11月27日(土)14時30分　3000円
新宿明治安田生命ホール
バッハ(ブゾーニ編曲):シャコンヌ　ほか
☎0120-961-891　JSOコンサート企画係

サロンコンサート
11月28日(日)15時　2000円
モーツァルトサロン
陶山薫子　松永京子　津田路　岩瀬昌広
加藤理彩子　西尾麻貴　ほか

大阪音楽大学卒業10年を迎え今ここに集う“熱狂の夜”
11月30日(火)19時　3000円
兵庫県立芸術文化センター小ホール
片岡リサ　大島弥州夫　久保田裕美　中嶋康子
田中郷子　迎肇聡　大西隆弘　小松原章子
井上なつき　土肥久奈　若林まどか　下岡万祐子
石橋文恵　小山優美子　原真奈美　晴山大作
田村太郎 ☎079-757-0643“熱狂の夜”実行委員会

木曜日はもっとショパンを!
～ショパン生誕200年記念2010～
12月2日(木)19時　ザ・フェニックスホール
前売3500円　当日4000円
土井緑　稲庭達　近藤浩志
☎050-5510-9645　大阪アーティスト協会

大竹道哉ピアノリサイタル　シューマン生誕200年
12月11日(土)14時
和泉市久保惣記念美術館Eiホール
入場料　無料　ただし入館料必要
☎0725-54-0111　和泉市久保惣記念美術館

大阪音楽大学　サキソフォーンオーケストラ
12月12日(日)14時30分　オペラハウス
入場料　800円
大阪音楽大学サキソフォーン専攻生

ブラスアンサンブル・ブリオン　クリスマスコンサート
12月13日(月)19時　島之内協会　1000円
西谷良彦　滝村洋子　永井孝治　竹本裕一
山口真理子　☎090-8468-0655　滝村

第21回大阪音楽大学クラリネットオーケストラ演奏会
12月14日(火)19時　いずみホール　1000円
大阪音楽大学クラリネット専攻生
(問)clarinetorchestraosaka@yahoo.co.jp

シューマンの軌跡～石原光世リサイタル～
12月18日(土)15時　前売3000円当日3500円
ムラマツリサイタルホール新大阪
石原光世　小西潤子　青木耕平
☎072-622-9928　バリアフリーコンサート企画

大阪音楽大学打楽器専攻生による第40回打楽器オーケストラ演奏会
12月23日(木)14時　500円　オペラハウス
北野徹指揮　大阪音楽大学打楽器オーケストラ
☎090-5692-5322　金原俊

日本テレマン協会特別演奏会　出戸由記子プロデュースによる“ピアノ協奏曲のタベ”
12月28日(火)19時
前売4000円　当日4500円　いずみホール
朝原望　笹友佳　出戸由記子
☎06-6345-1046　日本テレマン協会

《幸楽会》後援演奏会

宇留嶋美穂　河合摂子ジョイントリサイタル
11月3日(水・祝)14時　前売3000円
当日3500円　ザ・フェニックスホール
宇留嶋美穂　河合摂子　青木耕平
☎090-3847-5995　宇留嶋

トリオ・ソナーレ　1st Concert
11月3日(水・祝)14時
遊音堂2階　YOUホール　2000円
木山亮子　藤原良行　南平紗希
molto-clarinetissimo-yukky0824@ezweb.ne.jp

オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」
11月6日(土)17時　ラブリーホール
前売4000円　当日4500円
大橋ジュン　増渕弥生　楠永陽子　田中良和
福嶋勲　鹿又透　中村貴志
☎0721-56-6100　ラブリーホール

第2回サンセットコンサート
11月6日(土)18時　遊音堂Youサロン
2000円
實野みどり　松本幸子　松永みどり　後藤敏子
☎090-9704-0085

楽しいピアノ講座～ショパン生誕200年によせて～
11月7日(日)13時30分　聴講料500円
敦賀市きらめきみなと館　小ホール
講師　永井正幸
☎0770-20-1100　きらめきみなと館

ひとときの音楽　パーセルを歌う
11月12日(金)19時　西宮市甲東ホール
前売2500円　当日3000円
ソプラノ　北村多恵　ピアノ　林美枝
☎080-4233-1649　エスパス・ムジーク

ショパンが愛した歴史的ピアノ
11月13日(土)15時30分
前売1000円当日1500円　堺市民会館小ホール
森下奈美　寺西一巳　松本紗希　若松芳
日野俊介
☎072-238-1481　堺市民会館

横溝美也子ピアノリサイタル
11月14日(日)14時　1000円
宝塚ソリオホール
臼井幸司:Honey Muse−素敵な女神様−　ほか
☎0797-87-9659　横溝

Aurora　アウローラ京都公演Vol.Ⅱ
11月14日(日)14時30分　青山音楽記念館
前売2000円　当日2500円
結城麻子　和田陽恵　満田早穂里　香川紀恵
☎075-393-0011　青山音楽記念館

歌の美術館　大津
11月20日(土)19時　フィガロホール
前売2000円　当日2500円
山本久代　竹内公一　松田みゆき
☎077-522-3106　フィガロホール

田村靖子ソプラノリサイタル
11月27日(土)14時　2500円　世良美術館
ピアノ　長谷智子
R.シュトラウス:セレナーデ　ほか
http://www.sopyasuko.net/

メンデルスゾーン―2つのピアノトリオ―
11月28日(日)15時　青山音楽記念館
一般2500円　学生2000円
本郷舞　大町剛　今田景子
☎075-393-0011　青山音楽記念館

山口明ホルンリサイタル2010
12月4日(土)14時
前売一般1500円　学生1000円(当日500円増)
兵庫県立芸術文化センター小ホール
山口明　赤松由夏　満多野志野
☎0797-62-0366　山口

クリスマスコンサート「ロシア音楽のひととき」
12月5日(日)14時　入場無料(要整理券)
ピッコロシアター小ホール
納谷靖子　鴻池裕水　嶋村あゆみ　城谷真記
チャイコフスキー:くるみ割り人形　ほか

母と子のためのクリスマスコンサート
12月24日(金)14時　1500円(早割1000円)
東灘区民センターうはらホール
サンタクロース　ニャリみゆき
☎0798-52-5515　ジーエムアートグレイス

幸楽会のホームページ　http://www.kougakukai.net/
E−mailアドレス　kougaku@daion.ac.jp

付属音楽幼稚園

第27回夏まつり　7月24日

お母さんコーラス・フルフルの皆さんが演じるミュージカル「美女と野獣」で幕を開けた27回目の夏まつり。炎天のこども広場にはヨーヨー釣りや輪投げ、サッカーゲームなどの出店がズラリ。子どもたちは汗を拭き拭き、心ゆくまで「夏」を楽しんでいました。

第44回うんどうかい　10月10日

行進曲に合わせて園児280人が元気に入場。この後かけっこや保護者参加の玉入れ、年少組の大玉転がし、卒園児のおやつ取り競争、年長組の組体操など20競技がありました。お父さんやお母さんたちはカメラ片手に、がんばる我が子に声援を送っていました。

若い芽のコンサート

本学卒業生による「若い芽のコンサート」が7月31日、ミレニアムホールで開かれました。今回のテーマは「様々な音色によるヨーロッパ音楽紀行～バロックからロマンまで～」。夏の昼下がり、涼やかに吹き抜ける一陣の風のような荒木舞さんのフルートと入澤恵理さんのピアノの演奏で始まりました。続いてソプラノの下村淑子さんが山本佳美さんのピアノでグノーのオペラアリア「宝石の歌」を艶やかに歌うと、舞台はフランスからドイツへ。吉田衣里さんが引き締まったタッチで「シャコンヌ」をピアノ独奏。クラリネットの井上美奈さんは、中西梨奈さんのピアノで『椿姫』の旋律による演奏会用幻想曲」を軽やかに演奏。秋本久美さんと阪田阿沙美さんはピアノデュオでウィットに富む「魔法使いの弟子」を披露しました。

音楽博物館でワークショップ

7月から9月にかけ音楽博物館で、2種類のワークショップが開かれました。ひとつはインドネシア・バリ島の伝統音楽ガムランに親しむ「ガムラン・ワークショップ2010」。7月28日は小林江美さんが初心者を指導。9月8日は現地のガムラン演奏団「スダマニ」のみなさんが、経験者に仮面舞踊の伴奏曲を指導しました。

ガムランとミュージカル・ソー

もうひとつはミュージカル・ソーのワークショップ「Musical Saw のこぎりを弾いてみよう」。講師は滋賀大学特任准教授で、"はかなく物憂げな美しい音色"のミュージカル・ソーをこよなく愛する、のこぎり演奏家の稲山訓央さん。受講者は、のこぎりをたわませ、弓でこすって音を出す独特の奏法にチャレンジしました。

楽器を奏でる人形たち

名窯の珍作

1751年にドイツの名窯マイセンで作られた人形。当時の桂皮油売りがキタッラ・バッテンテという南イタリアのギターを演奏する姿です。

西岡信雄コレクションより（音楽博物館所蔵）

次号発行予定12月22日